

## ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (農林水産業みらいプロジェクトコース)		訪問国	シンガポール	
学校名	静岡サレジオ高等学校	氏名	内野友鈴	学年	2年

### ・留学内容

無農薬で体に良いというのが売りのお茶を様々な場所で販売していく中で、お客さんの層によって、購入率が異なることを学ぶ。

→この経験から、人の「体に良い商品を買おう！」という食意識があることで、もっとより多くの人に静岡のお茶を飲んでもらえると思った！

→日本より食意識が高い国に行って探究しよう！

(シンガポール)

- ・オーガニック認証というのがあり、そのような商品を多く売買されている
- ・日本と同じく食料自給率が低い
- ・東アジアの国
- ・中華系の人も多く、お茶というものが浸透している

Q. 本当にシンガポールは食意識が高いのか。本当ならば、それはなぜなのか。

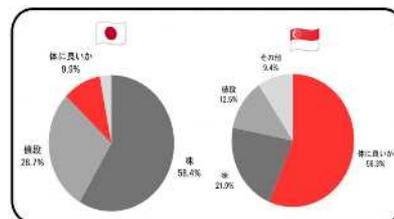
### ・街頭インタビュー

最初は質問し、回答を私が持っていたボードにシールを貼ってもらうという形式にしていたが、風が強かったり、貼ってもらうのに手間がかかったりしてしまうという理由で回答方法を変更した。変更後は、私が質問を文字で見せながら、回答を聞き、メモするという形にした。自分の英語に苦手意識があるため、聞き取ってもらえるかなど心配だった。数人聞き取ってもらえなかったが、多くの人が私の拙い英語に耳を傾けてくれて親切にインタビューを受けてくださった。

「食品を購入するとき、最も重視する点は何か？」

留学前に日本で同じ質問をしたときの結果と比較

この結果からシンガポールは日本に比べて食品を購入するとき“値段”を気にするという人よりも、“体に良いか”というのを気にする人が多いということがわかりました。



「Nutri-Grade ラベル\*を知っていますか。」



\*シンガポール政府による国民の健康維持のための取り組みの1つ。飲料の砂糖の含有量を示すラベルで、含有量が少ない順に ABCD の4段階あり、C、D はラベルの表示が義務つけられている。

私はこの取り組みに対して、シンガポールの人たちがどう思っているのかを調査したく、この質問をしました。しかし、認知度を調査していると近年導入された取り組みということも相まってほとんどの人が「No」と答えました。オフィス街のパークでお昼ごはんを食べている人を主に対象にしていく中で「No」と言っている人の手元に Nutri-Grade ラベルがあったので、「これ！」と言ったら「ああ、砂糖」と言っていたので、名前だけで聞くよりも、そのビジュアル、見た目を見せながら聞いたほうが効果的なのではないかと思い、変更しました。その結果、約半分の人が知っているという結果になりました。

### ・店舗調査

店舗においてオーガニック製品がどの場所に置いてあるか、お客さんの通りはどのくらいかを調査するために実際に様々なタイプのスーパーや食料品店を訪れました。庶民的なスーパーにもオーガニックの自社製品があったり、そのコーナーが入口付近にあったりしました。そのコーナーには「J」とも書いてあり、印象的でした。日本の多くのお店ではあまり目立たないところにあることが多いので、その違いを感じました。また、街なかにも健康を促す広告があったりしました。



### ・探究からの考察

日本とシンガポールは政策から店舗の環境まで異なることが多く、そこから国民の意識の違いが生まれているのではないかと思います。私自身法律にも興味があるため周りの環境からの影響など今回の留学が少しステップになりました。

### ・シンガポール国立大学見学

私は高校で国際バカロレアのカリキュラムを受けているため、実際に国際バカロレアでシンガポール国立大学に入学された方々にお話を聞いたり、大学内を案内していただいたりしました。私自身 IB に対して無知なところもあったのですが、色々なお話を聞き、日本での勉強意欲も上がりました。シンガポール国立大学はオープンキャンパスのため、観光客が自由に訪れることができ、良いこともあるのですが、生徒にとってはオーバーツーリズムによって勉強の邪魔になってしまっているという問題もあります。実際に行ってみて、食堂など多文化なご飯の種類が用意されていたり、色々な言語が飛び交っていたりすることに驚きました。



### ・シンガポール国立博物館 / チャンギ・チャペル&博物館

シンガポール国立博物館、チャンギ・チャペル&博物館では、日本の教育では学ばない日本と東南アジアの歴史を学ぶことができました。日本での授業だと、日本が被害を受けたと私達は受け止めがちですが、戦争は日本も多くの国を占領していたということに気付かされました。日本の占領の動きなどの展示がこの東南アジアの地にあることや「Japanese vs The alls」という表現を初めて見たので驚きました。実際に、取監されていた再現の場所では狭いコンクリートの中で生活していたことにストレートに現実味を感じる展示でした。他の国でこのような展示を見ることで視点を変えることができ、留学しなければ広がらなかったです。



### ・アンバサダー活動

アンバサダー活動では日本の食べ物を配ることを中心に行いました。一緒に知育菓子を作ったりすることでお互いの国を話す機会を作ることができたり、日本のお菓子を「私の宝物」と言ってくれる子もいました。また、街頭アンケートに答えてくださった方に感謝として日本のお菓子を渡しました。「日本のお菓子です」というとみんな喜んでくださって嬉しかったです。しかし、様々な宗教がある多文化国家だからこそのこともありました。私のホストファミリーはヒンドゥー教の家だったため、ベジタリアンでした。私は留学期間中ベジタリアンフードを食べました。最初は慣れない食生活だったのですが、ホストファミリーとご飯について話したり、色々話して大切な思い出になりました。本当は日本のお味噌汁を渡したかったのですが、その中に魚のエキスが入っていたので断念しました。向こうもごめんねと言ってくださり、お互いの文化を強調することができました。

